

【2】 「由旬」の語義

[1] 辞書などの解説によると ‘yojana’ の語義は大きく分ければ、①くびきをつけるの意で、牛に車をつけて1日ひかせる行程、②帝王が1日に行軍する距離、の2つとなる。

[2-1] 以上に紹介した辞書や論文では、「由旬」が「くびきをつける」という語義からくるとする典拠は紹介されていない。語源辞典によれば ‘yojana’ は ‘yunakti’ から来ているとする。W.D.Whitney の “The Roots, Verb-forms and Primary Derivatives of the Sanskrit Language” (Delhi, 1963) も \sqrt{yuj} からの派生語として ‘yojana’ をあげるから、この解釈は語源的な解釈ということができる。

筆者が見いだすことのできた古典は、“Jātaka” 539 ‘Mahājanakajātaka’ (vol.VI p.038) の「その周り1由旬の伏蔵された財宝 (samantā yojane nidhi)」というなかの ‘yojana’ を、そのアッタカターにおいて「車の軛のことである (yojanaṃ nāma rathayugam)」と注釈するもののみである (p.042)。しかしこれがより正確にはどのような意味であるかは分からない。

[2-2] J.Fleet は「2頭の牡牛が荷をいっぱい積んだ車を引くことのできる距離を表す。車に一杯の荷物を積んで運ぶ時にはきちんと部品を調整しなければならない。簡単にいえば商人の荷物を積んで託送するために1日に旅する標準的な距離」とし、定方晟氏は「牛に車をひかせるときに、あまり遠くまでひかせることはできない。牛の首に軛をつけて、適当な距離を歩かせ、軛をはずす。その適当な距離が1由旬だということです」と解釈している。

[2-3] もちろんこれを抛り所として、1由旬がどれくらいの距離であるかを導き出すことは難しい。J.Fleet はこれを12.12マイル (19.51 km) とし、実際には村落間の距離とか、宿場などの自然条件によって変化するから、10から14マイル (16.09から22.53 km) としている。

東洋大学の、かつてインドに留学経験のある橋本泰元教授のインドの友人に問い合わせてもらったが、その答えは「一般的に言って、2頭立ての牛の引く車 (bullock cart with two oxen) が普通の道を荷物を積んで運ぶ1日の距離は14 km (約10時間で、1時間あたり1.4 km)」ということであった。

[3-1] 一方「帝王が1日に行軍する距離」の意味に解する古典には “Arthaśāstra” (10-2-12) があり、『大唐西域記』巻2 (大正51 p.875下) も「踰繕那者自古聖王一日軍行也」とする。慧琳 (783~807) が『一切経音義』巻1 (大正54 p.315下)、巻11 (p.371中)、巻47 (p.617中) において「踰繕那者梵語。自古聖王軍行一日程也」とし、希麟 (934~981) が『統一切経音義』巻6 (大正54 p.958下) において「軍行一日程也」、あるいは巻6 (p.960中)、巻7 (p.964中)、巻9 (p.972中) において「聖王軍行一日程也」とするのは玄奘に拠ったものであろう。また宋・法雲 (1143) 編の『翻訳名義集』巻3 (大正54 p.1107中) は、踰繕那の項の解説において、『業疏』を引用して「此無正翻。乃是輪王巡狩、一停之舍。猶如此方館駅」とする。

由旬 (yojana) の再検証

[3-2] もちろんこれをもって、だから1由旬が何キロと結論が出るわけではない。